

平成29年度第1回農地中間管理事業運営委員会開催概要

公益社団法人千葉県園芸協会

- 1 開催日時 平成29年6月14日（水）13:30～
- 2 開催場所 教育会館新館4階401会議室
- 3 参加者 委員：11名
事務局：13名（公益社団法人千葉県園芸協会農地部）
関係機関：4名（オブザーバー出席：県担当課）

4 概要

事務局から、「農地中間管理事業の実績について」と「新たな土地改良制度について」の2点について説明し、出された主な意見・質問等は以下のとおりであった。

(1) 農地中間管理事業の実績について

ア 省力化について

(ア) 集積が進んでいるとのことだが、耕作条件（単位時間当たりの作業量）がそれほど改善されていないので、効率的に作業できるように環境を整備してもらいたい。

イ 「人・農地プラン」について

(ア) 重点推進地区を中心に、「人・農地プラン」を絡め、関係機関のプロジェクトチームとして現場に入り、面的な集積を進めていくことが一番効率的である。その際には、農地利用最適化推進員に地域の代表（窓口）となってもらい、農家に声を掛けてもらおうと、現場と関係機関をつないでいきやすい。

(イ) 「人・農地プラン」はある程度小さな単位で見直し、作成していく必要がある。

ウ 周知について

(ア) 機構の認知度はまだ低いので、ラジオCMやパンフレット、広報紙等のPRについて、結果を取りまとめ、より効果的な時期や方法で取り組んでももらいたい。

(イ) 土地が動くのは収穫が終わった後なので、4月からのPRでは季節外れである。

(エ) 農家は説明会を開いてもなかなか集まらないので、最適化推進員に集めてもらうのがよい。

エ 手続きについて

(ア) 手続きが煩雑で、時間がかかりすぎるので、もっと簡素化し、スピーディーにできるようにしてほしい。

(イ) 書類の不備が多いようであれば、担当者（窓口等の）のスキルアップを行えば、今より手続きが早くなるのではないか。

オ 目標について

(ア) 今の目標値を現在の担い手だけで受けるのは難しい。

(イ) 限られた担い手で受けるのには基盤整備ありきで進めてほしい。

カ 用水管理について

(ア) 集積を進めるに当たって、用水管理（ルール）の話合についても進めてもらいたい。

【事務局】

- ・耕作条件について、簡易な整備であれば、農地耕作条件改善事業で行える。
- ・PRについては、効果の検証を行い、より効果的な時期及び方法で進めたい。
- ・最適化推進員とは、今後、連携して事業推進を図りたい。
- ・手続きの簡素化、期間短縮については現在も検討しており、現場対応と合わせて進めていく。
- ・目標に向け、関係機関と連携し、担い手育成などの農業経営と合わせて推進していきたい。

(2) 新たな土地改良制度等について

- ア 新たな土地改良事業について、どの程度の事業量を見込んでいるのか。
- イ 計画段階の費用について、農家負担がないようにしていただきたい。
- ウ 長期間にわたる事業であるので、誰が集積を進めていくのかを議論していただきたい。
- エ 土地改良事業は単年度で終わる事業ではないので、その間、機構で農地を管理すると考えられるが、面整備が始まらない未整備地の管理等の対応をしていただきたい。
- オ 新たな土地改良事業に取り組むに当たり、機構の体制整備（基盤整備に精通した職員の増員等）を進めるべきである。
- カ 機械の大型化が進んでいるので、農道での一般車とのすれ違いが困難な状況である。
- キ 規模拡大に伴い、作期が長くなるので、用水を長期で使えるようにしてほしい。

【機構・県】

- ・要望している地区が複数あるが、本事業に乗れるかどうかは、今後、確認及び精査をしていきたい。また、農地耕作条件改善事業からの移行も検討している。
- ・機構が借り受けた未整備田などの農地の管理や対応については、今後整理していかなければならない。本事業の活用として、整備済み地区で換地を伴わない再整備地区での事業導入が有効と考えられる。

会議録署名人

会 長



2017/06/14